

こよみ



コールセンターからの、小さなよみもの



2021年
7月

2021年7月30日

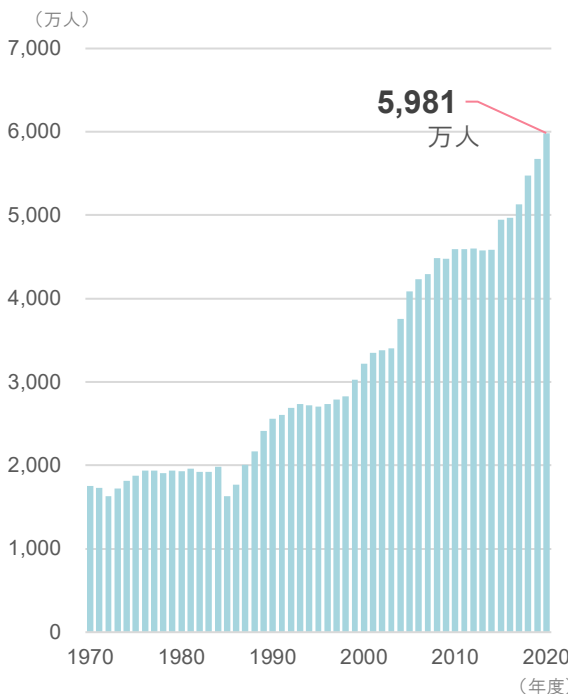
Vol
150

株式投資をするときに押さえておきたいポイントとは？ 日興アセット流、“株式投資のススメ”

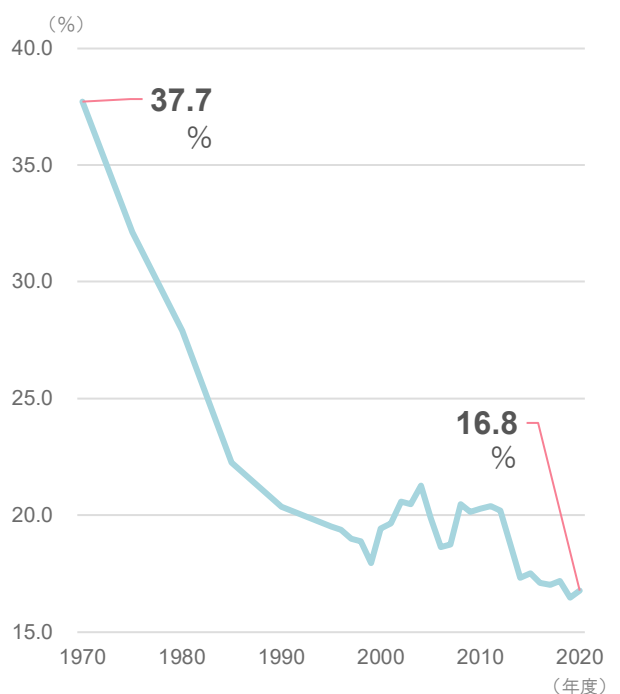
日本取引所グループが発表した2020年度株式分布状況調査によると、個人株主数は延べ5,981万人となり、過去最高を更新しました。(図-1) また、個人の株式保有比率は16.8%となり、1970年度の37.7%をピークに低下傾向でしたが、下げ止まりの兆しを見せています。(図-2) 昨年のコロナ・ショックによる株価急落を機に株式投資を始めた個人が増えたのが理由のひとつ、との見方もあるようです。

そのためか、コールセンターにも“株式”に関するお問い合わせが増えています。そこで今回は、株式投資におけるポイントを、日興アセット流に整理してみたいと思います。

■(図-1)個人株主数の推移(1970年度～2020年度)



■(図-2)個人の株式保有比率の推移(1970年度～2020年度)



※1985年度以降は単位(現在は単元)数ベース ※2004年度から2009年度まではJASDAQ証券取引所上場会社分を含み、2010年度以降は大阪証券取引所または東京証券取引所におけるJASDAQ市場分として含む。

日本取引所グループ「2020年度株式分布状況調査の調査結果について」をもとに、日興アセットが作成

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

こよみ



コールセンターからの、小さなよみもの



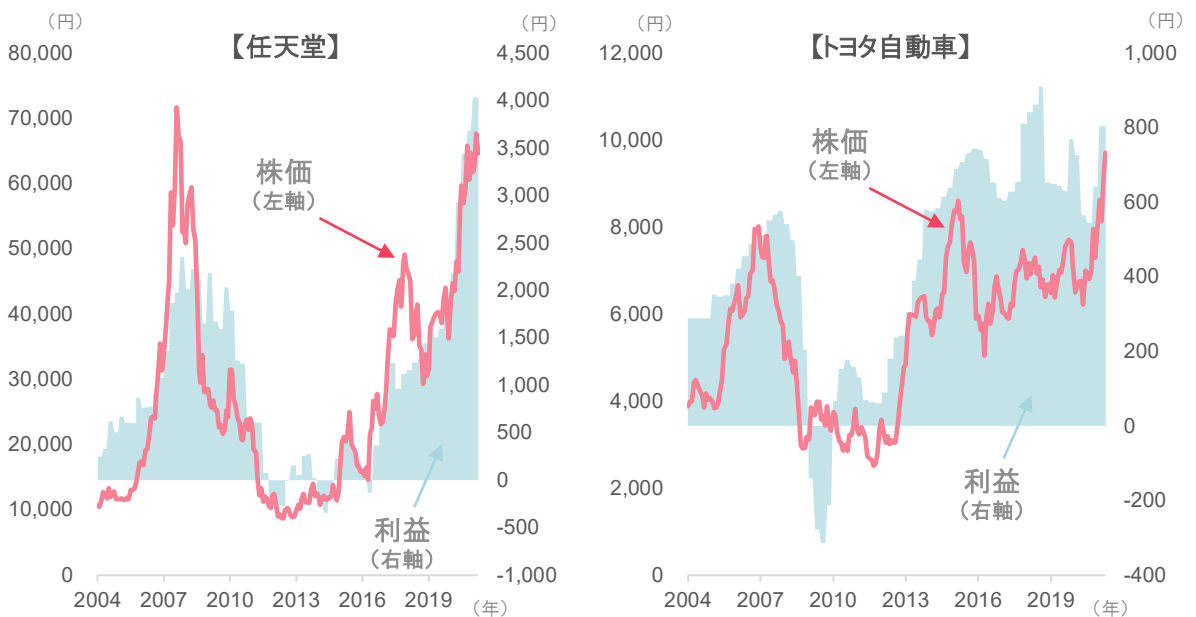
2021年
7月

株式投資は長期の目線で臨む

複数のモニター上で刻々と変化する株価を見ながら、売買を繰り返す。こんなイメージを持たれることも多い株式投資ですが、それはあくまでも短期目線で株式投資をしている人の話。

日本を代表する2社の株価と利益の関係を俯瞰して眺めていると、株価と利益がざっくりとリンクして動いていることに気が付きます。(図-3) 長期で利益を上げることが期待できる会社に腰を据えて投資できるのなら、株式は案外シンプルな投資対象だと言えそうです。「昨日と今日とで株価は違うけれど気にしない。なぜなら、これから成長していくはずだから」と考えて、長期目線で株式投資に臨むことをオススメします。

■(図-3) 株価と利益の関係の一例



期間：2004年3月末～2021年6月末

※代表的な日本企業を例示したものです。※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。※データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2021年
7月

投資信託を賢く使う

「●●社が発売した新商品が好きだから」「▲▲社のサービスに感動したから」などを理由に、投資先の企業を探すというのも株式投資の醍醐味のひとつと言えます。でも、その企業の10年後までを見通すというのは決して簡単なことではありません。

そんなときは、投資信託を活用し、運用者の目利きに頼るというのも選択肢のひとつです。日興アセットは株式に投資する投資信託を、3つの型で分類することをオススメしています。具体的には、特定の指数に連動することをめざす**指数連動型**、特定の「指数+α」をめざす**指数意識型**、業種やテーマを絞り込む**コンセプト型**の3つです。

■(ご参考)日興アセットが提唱する株式ファンドの新分類



1 指数連動型

- いわゆる「インデックスファンド」のこと
- 特定の一般的な指数に連動するように運用されている
- 運用成果は指数次第

2 指数意識型

- 業種などを限定しない、いわゆる「アクティブファンド」のこと
- 特定の一般的な指数をベンチマークとして意識しながら、「指数+α」をめざして運用されている
- どうしても指数との被りが多くなり、値動きも似る結果、インデックスファンドとの「勝ち負け」の議論になってしまうことも

3 コンセプト型

- 業種やテーマ(投資アイデア)を絞り込むタイプ
- 一般的な指数を意識せずに運用されている(指数との勝ち負けを目的にしない)
- これまで適切な分類がなかったため、②と一緒にされてきた



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2021年
7月

全産業の成長に期待するvs.業種を絞って投資する

これから先、全産業があまねく成長していくと考えるならば、その指数の定義通りに“丸ごと買い”ができる**指数連動型**の投資信託や、「指数+ α 」を期待できる**指数意識型**の投資信託が候補になります。

一方で、様々な業種に押しなべて投資するのではなく、成長する産業と低迷する産業とを自らで見極め、今後の長期成長産業のメガトレンドの果実を得ようとするならば、**コンセプト型**の投資信託を選ぶと良いでしょう。

もちろん、それぞれの型に良さがあります。投資を行なう目的や想定する時間軸に応じて、どの型が自分に合っているかをじっくりと考えた上で、具体的なファンド選びをすることをオススメします。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00